

聞きたるまゝ

泉鏡花作

全一章

吾われ聞きく、東とう坡ぱが洗こ兒を詩あに、人ひと皆みな養を子やし望な聰ら明めい。我われ被そつ
聰を明か誤む一じ生つ。孩が兒い愚に且して魯かつ、無さ災い無な難く到なく公こう卿けい。

又また李り白はくの子こを祝しめする句くに曰いはく、揚さ杯か祝つ願げん無な他た語ご、
謹つ勿しん頑で愚く似や汝な爺ち矣に。家か庭てい先せん生せい以もつて如い何かとなす？

吾われ聞きく、昔むかしは吳こ道だう子し、地ぢ獄じく變へん相さうの圖づを作つくる。成せい都と
のひと人、一た度び是これを見みるや咸ことごとく戰せん寒かんして罪つみを懼おそれ、福ふくを
修しうせざるなく、たために牛ぎう肉にう賣うれず、魚う乾をかく。

漢かんの桓かう帝ていの時とき、劉りう褒ほう、雲うん漢かんの圖づを畫ゑがく、見みるもの
暑しょを覺おほゆ。又また北ほく風ふうの圖づを畫ゑがく、見みるもの寒かんを覺おほゆ。

吳この孫そん權けん、或ある時とき、曹さう再さい興こうをして屏びやう風ふうに畫ゑがかしむ、
畫くわ伯はく筆ふでを取とつて誤あやつて落おして素しろきに點てん打うちつ。因よつて
ごまかして、蠅はへとなす、孫そん權けん其その眞しんなることを疑うたう

て手を以て弾いて姫を顧みて笑ふといへり。王右丞
が詩に、屏風誤點惑孫郎。團扇草書輕内史。

吾聞く、魏の明帝、洛水に遊べる事あり。波蒼く
して白獺あり。妖婦の浴するが如く美にして愛す可
し。人の至るを見るや、心ある如くして直ちに潜る。
帝頻に再び見んことを欲して終に如何ともすること
能はず。侍中進んで曰く、獺や鯢魚を嗜む、猫にま
たゞびと承る。臣願くは是を能くせんと、板に畫い
て兩生の鯢魚を躍らし、岸に懸けて水を窺ふ。未だ
數分ならざるに、群獺忽ち競逐うて勢死を避けず、
執待て輒獻ず。鯢魚を畫くものは徐景山也。

劉墳が妹は陽王の妃なり。陽王誅せられて後追慕
哀傷して疾となる。婦人の此疾古より癒ゆること難
し。時に殷ニ善く畫く、就中人の面を寫すに長ず。
劉墳密に計を案じ、ニに命じて鏡中雙鸞の圖を造ら
しむ、圖する處は、陽王其の寵姫の肩を抱き、頬を
相合せて、二人ニヤノノとして將に寝ねんと欲する
が如きもの。舌たるくして面を向くべからず。取つ
て以て乳媪をして妹妃に見せしむ。妃、嬌嫉火の如

く、罵ののつて云いく、えゝ最もうどうしようねと、病やま癒ひいえ
たりと云いふ。敢あへて説せつあることなし、吾われ聞きくのみ。

【完】

^